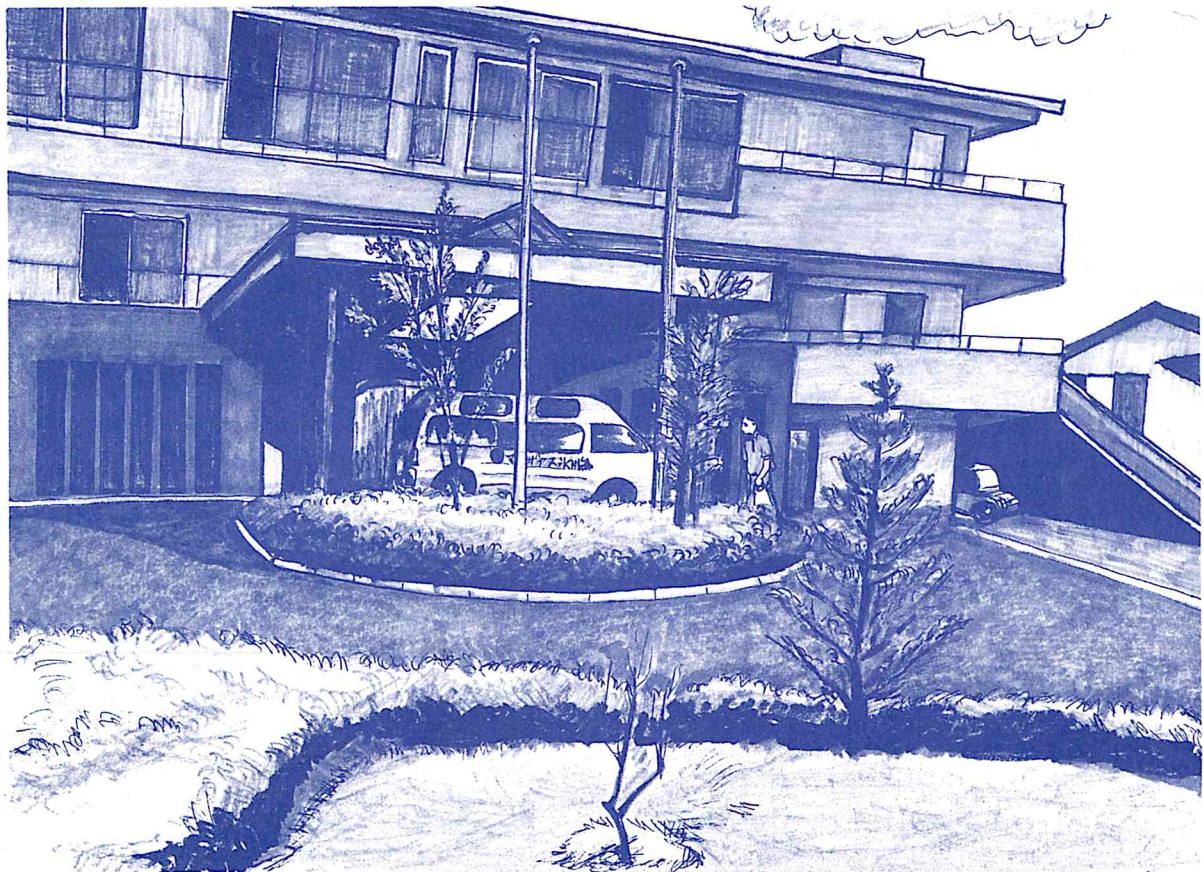


# 創刊号 マザアス 1996・7月 ニュース

発行／ 社会福祉法人 マザアス 特別養護老人ホーム マザアス東久留米 高齢者在宅サービスセンター マザアス刈谷  
〒203 東久留米市氷川台二丁目5-7 Tel.0424-77-7261 FAX 0424-77-7500  
発行責任者 高原 敏夫 編集責任者 山崎 宣子



## 日溜まり

施設長 高原 敏夫

若いときに住んでいたアパートの近くに神社があり、その構内のブランコには子供達が群がっていました。片隅には分厚い木でつくられたテーブルを間にして、ベンチが二脚置かれていたように思います。

風のない日には、数人の高齢者が集まってきたては語りあっていました。時には手紙の代筆をしているようでした。その近くを通るたびに、あの日溜まりは、温かい、何とも言えない雰囲気があるなと思ったものでした。

マザアス東久留米も開設して一年の歩みを振り返る余裕ができたところです。

「ホーム」の意味を辞書でみると「家庭・家わが家・故郷」とあります。

この施設を利用する人にとっては、「わが家」にすべく歩みをはじめました。職員、入居者、家族、地域の方々丸となって、東久留米市の東部地区に、日溜まりをつくらうではありませんか。寒い日でも、そこはいつも温かい、と言われるような。



# マザアス東久留米開設 1 周年記念式

平成8年5月8日、特別養護老人ホーム マザアス東久留米は、開設して満1周年を迎えました。この日は、これまでマザアスに関わっていただいたボランティアの方々に感謝の意を表して、記念講演・会食パーティーが開かれました。



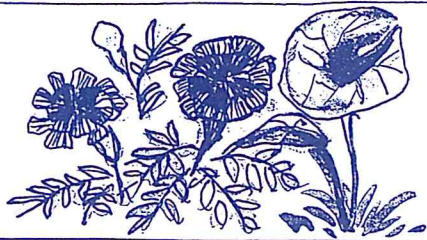
日頃お世話になっているボランティアさんに感謝の気持ちをこめて、ゴージャスなお食事をふんだんに出してもてなす開設記念パーティーとあって、栄養課一同はりきってのぞみました。当日は全員出勤で料理作りにとりかかり調理師8名は一人4品以上うけもって、狭い調理場の中をかけずりまわりました。材料費も量もたくさん使ったこの料理、作り終えた調理師さんはぐったりして食欲もなかったようです。（栄養課長 篠原 真紀）



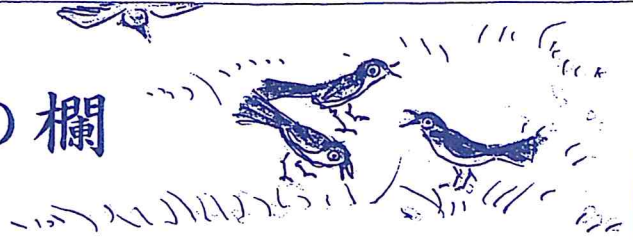
開設記念行事の一環で、演歌歌手の司千恵子さんがうたいにきてくれました。まだ19歳という若さながら、一人一人と握手をしながら優しい声をかけては、美空ひばりの歌や自分の持ち歌を声高らかに歌って聞かせてくれました。2階の牧野さんがお孫さんの姿にダブらせて声をかけ、いつまでも握った手を放さない程感激している姿を拝見するなど、皆さんが熱い思いを分かちひとときを過ごすことができました。

（高齢者在宅サービス科次長 今沢 隆一郎）





## 声の欄



この度の新聞の発刊に当り、マザアスに直接関わる各分野の方々、つまり経営陣（以下敬称略）、事務職員、看護婦チーム、ケアワーカー、指導員、マッサージ師、運転手、調理員、利用者（入居者、ショートステイ、デイケア）、家族等に分け、私情的で無いホーム全体に対する建設的な声を、紙面の許す範囲で順次載せたいと思います。今回は、最も身近な所から入居者とボランティアの方にしほりましたので、悪しからずご了承ください。

### 「ボランティアの声」

- ◇ 不安な思いで過ごした一年ではあったが、その中にも確かな手応えを感じた時には、喜びを見出すとともに涙するほどの感激もあった。
- ◇ 私達に対する職員の方々の優しさと感じづかいには、むしろ、恐縮する思い。
- ◇ 交流ロビーでは、現在の利用者の他にもケアを必要とする地域の方々を数多くお招きし、できるだけ交流を深めたい。
- ◇ 数少ない男性ボランティアには心強さを感じているので、この先、男性ボランティアの数がさらに増し加わることを望んでいる。

- ◇ マザアスでのボランティア活動は、私達がこれから生きていく上で、大変価値のあるものと思っている。
- ◇ まわりの方々の協力を得ながら、利用者と一緒に心豊かな日々を送りたい、と願っている。

# 住めば都ぞ マザアス  
さらなる明日を 問われるば  
舞い来る野鳥も 花の香に  
ほろ酔う心 かなうべし 〆  
（黒田節の替え歌で）

### 「入居者の声」

《意見箱より》（無記名）

- ◆ 多人数の部屋で、紛失物が多発するから部屋替えを希望します。
- ◆ 職員に甘え、意気地が無いのか、オムツやトイレで世話をかけるのは、だらしない。また浴室の湯や水を流しっぱなしの人は不心得だからその都度止めるべきです。
- ◆ 玄関から入ると「ホテルみたい」と誰もが言う。真新しくソフトで介護の配慮も行き届いた設備。そして優しく忍耐強い職員とケアワーカーさん達。気難しかったり甘ったれの入居者達と職員側との触れ合いの日々は始まったばかりだが、この創世記の一年、何もかも初めて体験することばかりなのに、押し寄せた行事の数々をよく見事にこなして下さったと思う。これからも皆さんのご健康を祈り、改めて感謝すると共に何卒今後ともよろしくお願い申し上げます。

《雑談から》

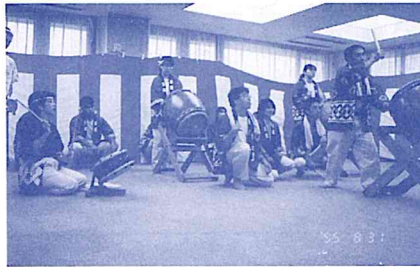
- ◆ ボランティアの方で、もっと職員の手不足を補って頂けると有り難い。
- ◆ ケアステーションの申し送りが徹底せず前日の頼みが忘れられることが多い。
- ◆ 洗濯物のクレーンが多いのは、専任の方が一人なので、休んだ日は混乱し中々戻らない物もあるので、専任の助手が欲しい。
- ◆ 週に一回、ケアワーカーとフリーで外出や、散歩をしたい。
- ◆ トイレは、便の時は、その度片付けてほしい。

紙面の都合で大分省略しましたが、集団生活のルールは、プライバシーの尊重にあると思いますので、お互い思いやり合い、助けあって暮らしたいものです。

職員の方々に感謝。



# 歩み



在宅サービスセンター 納涼祭

去年の8月29、30、31日に在宅サービスセンターでは納涼祭を行いました。利用者も職員も祭のハッピを着て、豆しぼりをしめて朝からお祭りムードで盛り上がっていました。模擬店には、綿あめやかき氷、輪なげ、ヨーヨーすくいなどがなりました。特に、綿あめは人気があり「何十年振りかななつかしい！」という利用者もお

り、頬ばっている姿は誰が見ても童心に返るひとときでした。

ボランティアさんによる盆踊りには、どこからともなく利用者や職員が集まり、何重もの輪ができました。

そして、忘れてならないのは利用者の方が作られた手作りの御神輿を皆で担いだこと。丹精こめてつくられた御神輿は、どれも一際目立っていました。ボランティアさんの太鼓も素晴らしかったけど職員による太鼓も負けていませんでした。

思い起こせば、興奮と熱気と歓声に包まれた3日間だったと思います。今年も・・・。

(生活指導員 久松 信夫)



## 秋 光 祭

どんな人をもやさしく包み込む秋の日差しになりたいと、名付けられた「秋光祭」では、作品展示をはじめ、写真展・映画会・喫茶バザーなど盛沢山の催しと、音楽クラブや琴の演奏、職員の合唱といった発表会が開かれました。

(作業療法士 畠山 泰子)



## 湧泉の郷 クリスマスパーティー

クリスマス色に飾られた部屋で赤いリボンタイで全員正装。ちょっとヘンなサンタクロースがやってきて、利用者全員にプレゼントを配り、ゲームをしたり、歌をうたったり楽しい時間をすごしました。(寮母 佐々木 友紀)



## 在宅サービスセンター 節分

今沢センター次長扮する赤鬼の登場とともに「鬼は外! 福は内!」のかけ声を先頭に、みんな一斉にまきははじめました。利用者の皆さん、やさしいのか鬼が怖いのか、あまり強く豆をぶつけないで、それでもテイルームの中は豆だらけで、なかには気分スッキリ、という利用者の方もいたのではないのでしょうか。

(寮母 長倉 京子)

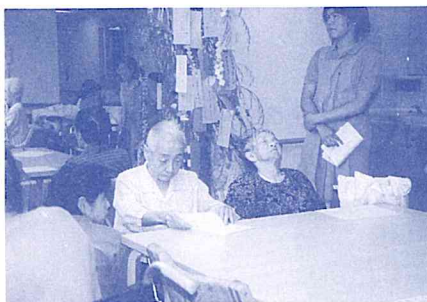
## 湧泉の郷 初詣(水天宮へ)

初詣は、清瀬の水天宮へいきました。皆でおみくじをひいて「凶とでるか、吉とでるか?」・・・この2人はどちらだったのでしょうか?

(寮母 佐々木 友紀)







#### ●七月／七夕

筆をもてる方は自ら、もてない方は職員が代わりに短冊に願いごとを書き、笹に結びました。また折り紙で輪飾りを作り、星をちりばめたりして笹に飾り、七夕の歌で祝いました。職員がサキリフォンの独奏もしてくれました。



#### ●八月／納涼祭

蒸し暑い中、駐車場が舞台になりハワイアン、太鼓、盆踊りのショー。テラスでは模擬店。焼きリッパ、フランクフルト、トウモロコシ、みつめ、氷、ビールにジュースと盛りだくさん。地域の人達も大勢参加してくれました。



#### ●九月／敬老の日

お祝いに、ハワイアン、手品が披露され、紅白饅頭、名入りのタオルをいただきました。家族とともに祝いされた方も多かったようです。都合により、なでしこ幼稚園の園児たちが来られなかったことが残念。



#### ●十月／運動会

ボールまわし、パン食い競争、玉入れと、紅白に分かれて戦いました。職員同士の“尻ずもう”はAさんの行司で盛り上がりました。みんなもふだん見せたことのないような必死の顔や笑顔を見せた楽しい一日でした。



#### ●十一月／秋光祭

歌の加藤先生の指揮で、“ふるさと”を合唱しました。歌の会で何度も練習したものです。手作りクラブで作った“ちぎり絵”“手織り”なども展示されました。おやつのでんぱいと栗ようかんがとっても美味しかった。



#### ●十二月／クリスマス

職員のハンドベルの演奏が何ともきれい！ ゲームやクリスマスの歌をうたい、サンタさんからのプレゼント。サンタ役の職員のその後の愛称は“サンタさん”。昼食は家族とともにバイキングで楽しみました。



#### ●一月／新年のお祝い

お祝いのお酒が皆に配られ、事務長の音頭で「おめでとう！」お雑煮と、2段重ねのお重の中は、煮しめ、黒豆、きんとん、錦卵、数の子、昆布巻、海老等々、栄養課のかたがたの手作りのものが盛りだくさん。彩りもきれいでした。



#### ●二月／節分

鬼のコスチュームが抜群！ メーキャップには、「あれは誰？」と職員も判らないほどでした。「鬼は外」と逃げ回る鬼をめがけて豆をまくのは、最高の気分。「おもしろかった」「楽しかった」と皆々の声。



#### ●三月／ひな祭り

手作りクラブで作った押し絵のお雛様に見守られて、職員の大喜利大会。良い答えには座布団、まずい答えでは取り上げられ、ともかく拍手と爆笑のうず。その後、お内裏様とお雛様の紙の衣装を着て記念撮影。

特別養護老人ホーム／マザアス東久留米◇



## 「高齢社会とボランティア活動」

日本社会事業大学 前学長  
三浦文夫先生



“高齢社会”と“ボランティア”というこの二つの問題は、まさしく現在の日本が求められているもので、二十一世紀の社会につながっていく間違いのない重要なキーワードだと思います。

### “高齢社会”を生み出したもの

ところで日本人は、豊かな社会をつくろうと経済活動、生産を高めようと努力してきましたが、気がついたらこれだけの“高齢社会”になっていた。一方では出生率が低下し、現在は1.46人で東京では1.1人全国で最も低いです。もう、まもなく15歳未満の子供たちの数より65歳以上の人の数が多くなってきます。

日本の戦後、経済が復興し高度成長を進める中で、皆、サラリーマンになっていきました。昔は自営業で家族皆で経済を支えていたのに、サラリーマンは一人あるいは夫婦で働いて家族を養っていく。家族全体が核家族になって、子供を育てるのが大変と、生まなくなる。

もう一つは、皆が死ななくなった。昔は65歳になる人はというと3～4割しかいなかったが、今は85%を越えている。65歳で死ぬというと今は若いのです。なぜそうになったかということ、今はどこへ行っても電気冷蔵庫があるが、昔は大部分の物は非常に塩辛いもので保存をしなければならなかった。それが高血圧の原因になった。それにすぐ腐敗するから昔はよくチフスだの赤痢だのの病気になったものです。

それと労働も、過労、働きすぎということがあったが、今は機械がやってくれるので精神的にはストレスが多いかもしれませんが、全体的に過労ではなくなってきました。また医学の知識、関心の高まり、しかも医療や薬の発達、——今はなかなか死にません。

### “高齢社会”がおこせる問題

“高齢化社会”は同時に“長命革命”といえる。特に80歳以上の人が増え、2025年には1056万人になり1990年に比べて3倍に増える。65歳以上は、2倍位と言われている。まさしく“長命革命”です。

さて、人は80歳を越えると必ず体が弱る。はなはだしい状態になると寝たきりになる。それから、ぼけてくる。このぼけは病的なぼけです。これが一つの大きな問題として出てくる。もう一つ重要な問題として、この産業化、近代化の中で社会の仕組みが変わってしまった。核家族化がどんどん進んできた。親と離れて暮らしていても会いたい時に会う——別居という状態では、普通はそれで済むけれど、病気をしたり歳をとって介護する状況となるとそうはいかなくなる。家族で支えきれなくなってくる。ケアの問題が家族だけの問題でなくなり、外部化された社会の中に入ってくる。それが端的なのが高齢者の介護の問題で、今、公的介護保険が言われている。高齢社会を支える基本の社会が今のままでいいのか、これが今の重要な反省点だと思う。

### 成熟した福祉社会をつくるパスポート

経済も発展しなければ社会を支えられないが、今のような競争社会、能力主義の社会とは違うもっと福祉を軸に生活を中心にした、人間を重視するようなそういうものを土台にしていかなくてはならない。その社会をつくっていく場合、いろいろなアプローチがあるが、その重要なパスポートが“ボランティア活動”です。

### 日本語になった“奉仕者”

ところで“ボランティア”を「奉仕者」と、日本語に置き換えたら抵抗がありませんか？ イメージとしては、滅私奉公——お国のために自分を捨てて尽くすというまた社会奉仕という言葉もあるが一般の言葉でボランティアとは言わない。もう一つ「篤志家」というのがある。困った人に、援助を必要とする人に、憐れみ同情で何ら



かの手を差し延べたい、そういう行為は恵まれたものが恵まれないものへ、上から下へという思いが入り込んでいる。皆さんのボランティア活動はどうか？ 決してそういうものではないと思います。皆さんは同じ人間どうし、仲間というものだと思うのですが。“ボランティア”を「社会奉仕」「篤志家」と表現したのではどうもニュアンスが伝わらない。元タイギリスやアメリカから来た言葉ですが内容はイギリスやアメリカの活動を真似たものではなく、日本で言う「社会奉仕」「篤志家」が現代的形態で出てきたものが“ボランティア”だと思う。

#### ボランティア活動の4つの柱

そのボランティア活動の原点は共通するものがある。

一つは「自立性」「自発性」「自主性」個人個人の自覚の上であるということです。従来の社会奉仕とはちがうものである。二番目には「無償性」。報酬を求めない三番目には「公共性」。活動が公共的なもの。社会とか公共的なものに対して役に立つ。ふつうはこの三つが「ボランティア活動」に共通するものとしてあげられているこれにもう一つ付け加えると「先駆性」「開拓性」ということ。あまり枠にあてはまらないその状況に応じていろいろやっていこうと。施設や 在宅、障害者、非行防止や文化活動、環境保全などいろいろなボランティアがあるが今言った四つのものが共通している。

#### ボランティアの役割

今の社会は学校であれ、工場であれ、会社であれ、組織化された社会で我々はその一員である。と同時に、個人個人のプライベートな社会とがある。誰を好きになろうと、どういう宗教を信じようと、主義をもとうとそれは個人の問題です。プライベートな社会とソーシャルな社会と二つある。それを両方つないでいく道筋の一つがコミュニティなのです。制度化されたものと私的な個人個人をつなぐもの、つないでいけるものが必要になる。

その架け橋になるものがボランティアです。昔は共同社会の中でやってきた。大都市社会では、それを意図的につくっていかなくてはならない。実は、ボランティアはそれをつくっていく架け橋になるのです。

#### 高齢者ケアにおけるボランティア

このことは社会全体の話ではなく、例えば高齢者のケアの問題。老人ホームなどの施設があり、ホームヘルパーもある。そういった制度化されたサービスが用意されなければいけないが、それがあれば安心という訳ではない。

例えば、在宅で寝たきり状態の人がいますね。ヘルパーさんが朝から晩まで付きっきりでないのです。夜中は来てくれない、土曜日曜はだめなんですよ。緊急の時には来てくれない。それを支えるには家族が、隣近所が、また場合によってはボランティアがいけないのです。制度化されたものの公的なものだけでは安心できないどうしてもそれを支えていくプライベートなものがないと困る。

老人であろうと誰であろうと、同じように人間としてそれぞれの生活を尊重し相手の立場で支えあうということできなければ福祉社会はできないわけです。

#### ボランティアに参加する人々

マザアスでも高校生が参加しているようですね。若くしてボランティア活動の中に自発性と同時に他人の役にたっているすばらしさ、しかも自分たちはそこから何かをもらうそれは、福祉社会をつくる上で大変重要ですね。と同時にボランティアの大部分は女性で主婦の方ですね。何人かは年配の男の方もいるようですが。本当は会社で働いている人達も含めてもっと参加してもらう必要がある。女性だけではなく、もっともって働いている人、学んでいる人たちもかかわっていくことができるようにするのがこれからの大きな課題です。そういう意味では、二十一世紀を生きていく子供たちにとっても重要な意味をもちますね。そう考えるとボランティア活動に託すべき期待は、二十一世紀に大変重要なものになってきます。

国もようやく気がつきはじめて、特に去年の阪神大震災以降ですが、新しいボランティアを支える制度を作ろうという動きが出てきている。新しい高齢社会、しかも福祉社会を支えられる二十一世紀をつくっていくためのパスポートを“ボランティア活動”に求めているというふうに考えています。

皆さんも一年いろいろな形で参加してきました。それに敬意を表しながら、活動がますます広がり、活動を通していっそう豊かになることを願います。



## 平成8年7月からはじまる訪問サービスのお知らせ

### ホームヘルパー派遣

在宅で身体上または精神上的の障害があり、日常生活を営むのに支障がある高齢者の家庭に対して、ホームヘルパーを派遣致します。

#### ◇サービス内容

介護及び、買い物、洗濯  
掃除など家事援助。  
相談、助言サービス。

#### ◇派遣日数と時間

月曜日～金曜日

9時～18時。1日2～3時間程度。

#### ◇費用負担

生計中心者の前年の所得に応じて一部  
負担金が徴収されます。



⇒マザアス氷川台  
ホームヘルパー派遣サービス  
コーディネーター岩田です！

今、社会は在宅ケアに向けて様々な分野で急激な変化をみせています。その変化の中で”私達が地域で受けたいと思うような在宅介護を目指して、一貫した在宅介護の真のあり方を追究していきたい。”

それが、ホームヘルプサービスを開始するにあたり私が思う事です。先にサービスを始められている特別養護老人ホーム

・在宅サービスセンターの皆さんに  
色々な事を教えて頂きつつ必要な介護をいつでも、どこでも、望む人  
全てに提供できるよう努力して  
いきたいと思っています。



### 訪問給食サービス

70才以上で、在宅の虚弱な1人暮らしの高齢者または高齢者夫婦のみの世帯に対しマザアス氷川台から配食致します。

#### ◇サービス内容

月曜日～金曜日の1～3回。昼食のみ。

1食300円

#### ◇対象地域（ヘルパー派遣も同じ）

上ノ原、神宝町、金山町、大門町  
氷川台、東本町、新川町、浅間町  
小山

#### ◇問い合わせ

東久留米市高齢福祉課

73-5111（代）

マザアス氷川台

高齢者在宅サービスセンター

77-7263



### ※ 編集後記 ※

・「マザアスニュース」が施設と地域を結ぶ  
かけ橋になるようにと思いをこめ編集しました。  
西野次三

・沢山の想いを凝縮するのに四苦八苦  
志賀妙子

・色々な方々との出会いと語らいが出来た  
ことに感謝しています。 小河光江

・一枚の紙に優しさとぬくもりを込めて伝え  
たいと思います。 山崎宣子

・まとまった時間がとれなくて苦労しましたが、  
楽しい時間をもてました。 川上精子

・皆さんの協力を得て次号に向け一層の努力  
致します。 藤井政明

・在宅サービスセンターが始動して1年。広報作りで  
1年を振り返りました… 佐々木友紀

題字 西野次三 表紙カット 志賀妙子